

起こりうる災害の現状を認識しよう。

水害が起きたら

水害編

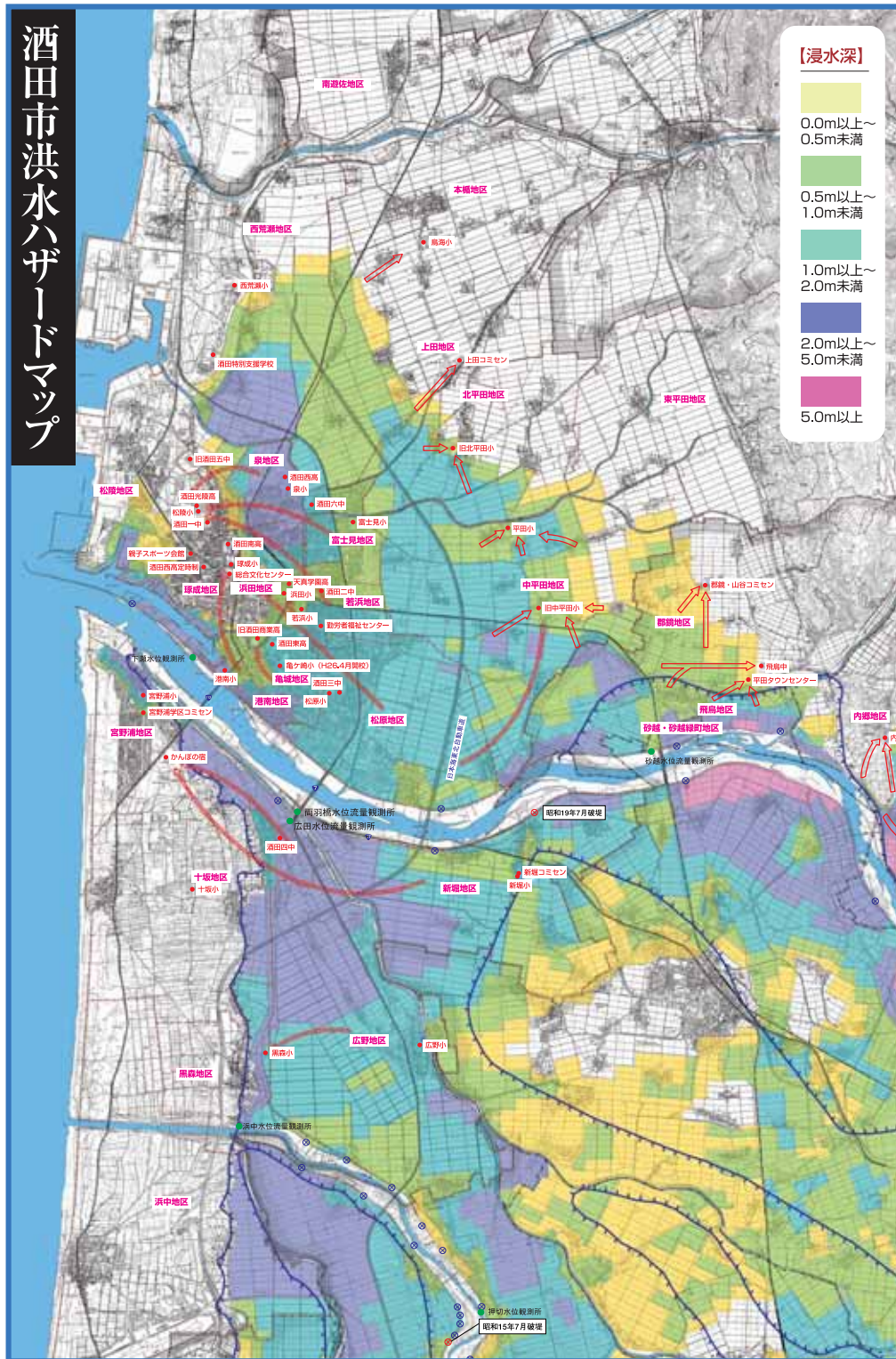
台風や集中豪雨などの大雨により、最上川や赤川がはんらんすると、酒田市内の住宅地の38.9%が浸水する可能性があります。

水害の危険性

台風や集中豪雨などにより、酒田市内で想定されている水害は、国土交通省東北地方整備局が平成14年度に公表した「最上川・赤川浸水想定区域図」に基づいています。これによると、最上川では、150年に1回程度起こる大雨（2日間総雨量166mm）が流域全体にわたって降りつづき、それによって最上川下流がはんらんする場合、赤川については、100年に1回程度起こる大雨（24時間雨量323mm）が流域全体にわたって降りつづき、それによってはんらんする場合を想定しています。

洪水によりはんらんした場合、酒田市は最上川・赤川の最下流部に位置することから、浸水深が1m以上になる地域が多く発生することや水が引くまで時間がかかることなどが懸念されています。

气象台が出す気象情報や酒田市が出す避難関連情報に十分注意し、避難勧告や避難指示（命令）が出された場合には速やかに行動できるよう心がけましょう。



水害に関する予備知識

水害の情報を正しく判断するために

集中豪雨とは

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難。中小河川のはんらんや土砂崩れなどによる大きな被害が予想されます。造成地、扇状地などは特に気象情報に十分注意し万全の対策をとるようにしましょう。

1時間の雨量と水害発生状況(目安)

1時間の雨量 (予報用語)	水害発生状況
10~20ミリ (やや強い雨)	長く降り続く時は注意が必要。
20~30ミリ (強い雨)	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れ。
30~50ミリ (激しい雨)	土砂崩れ・がけ崩れがおきやすくなる。
50~80ミリ (非常に激しい雨)	マンホールから水が噴出。土石流が起こりやすい。
80ミリ以上 (猛烈な雨)	大規模な水害が発生する。厳重な注意が必要。

※気象庁による

水害が起こりそうなときは

- わやみに外出せず、家族との連絡を取るよう心掛けましょう。
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備を。
- 避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備を。
- 病気の人や乳幼児、自力で避難することが困難ななどを安全な場所へ。
- 飲料水を確保しておく(断水などの恐れがある)。
- 気象(台風)情報を注意深く聞く。
- 浸水などの恐れがあるところでは、家財道具や食品・衣類・寝具などの生活用品を高い場所へ移動。



洪水時の避難について

避難指示などの種類	市からの呼びかけの内容	とるべき行動
1. 避難準備情報	〇〇地区のみなさん! 大雨により最上川、赤川が増水し、危険な状態です。 いつでも避難できるように準備をしてください。	<ul style="list-style-type: none"> いつでも避難できるように、避難の準備をしましょう。 ラジオやテレビの放送、市からの広報に注意しましょう。 お年寄りや子どもは、早めに避難させましょう。
2. 避難勧告	〇〇地区のみなさん! 最上川、赤川がはんらんする恐れがあります。速やかに避難をしてください。	<ul style="list-style-type: none"> お互いに助け合って、指定された避難場所に速やかに避難を始めましょう。
3. 避難指示(避難命令)	〇〇地区のみなさん! 最上川、赤川がはんらんし家屋に浸水する危険があります。 いまず、避難をしてください。	<ul style="list-style-type: none"> 指定された避難場所に、直ちに避難してください。

水害のときの避難の注意点

大雨などによる災害から身を守るためには、水害が発生する前に避難すること、川やがけなどの危険な場所に近づかない(離れる)ことが大切。

【はきもの】

裸足・長靴は厳禁。ひもで締められる運動靴がよい。
※長靴は、中に水が入って歩けなくなる危険性がある。

【ロープにつなぐ】

はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しよう。とくに子どもから目を離さないように。

【歩ける深さ】

歩ける深さの目安は、男性で約70cm、女性で約50cm。水深が腰までであるようなら無理は禁物。高所で救援を待とう。

【足もとに注意】

水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら歩こう。

【子どもやお年寄りを安全に】

お年寄りや自力で避難することが困難な人などは背負う。幼児は抱きかかえるか背負うなどして安全を確保する。